



動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号(DC会館)
電話 (鉄電) 千葉2935・2939番
(公) 043(222)7207番
FAX 043(224)7197番

2000.12.1/No. 5237

動労総連合第15回定期全国大会 君塚正治新委員長を選出

動労総連合は、12月3、4日、DC会館において第15回定期全国大会を開催し、新年度の運動方針を決定、新世代の役員体制を確立した。

絶好のチャンス

大会は、平岡副委員長のあいさつで開会。本部を代表してあいさつにたった中野委員長は、「今労働者にかける闘いがある攻撃は、一〇〇年に及ぶ闘いのな

かで労働者が築きあげてきた権利や労働条件などを一切奪い尽くそうとするものだ。だが、こうした攻撃の根源にあるのは資本主義体制の危機である。自民党も崩壊を開始し、JR体制も危機に陥っている。JR総連・革マルは九州労の崩壊、坂入り拉致事件等、革マル内部で大分裂を開始している。われわれは闘う国鉄労働運動を再生する絶好のチャンスを手に入れている。

君塚新中央執行委員長の決意



動労総連合は、国鉄分割・民営化攻撃の嵐のなか、困難を承知で闘いの旗を掲げました。それから今日まで私たちは、真の労働運動を担ってきたという自負をもっています。動労総連合は今、21世紀を前に大きな飛躍のときを迎えています。いまわれわれに求められている課題は何よりも組織の強化・拡大です。JR総連は九州から崩壊しはじめ大混乱に陥っています。動労総連合結成以来の理念である「闘う動労の再生」を実現する絶好のチャンスが到来しています。数は力です。この一年、全国各地で奮闘し、JR総連解体・組織の強化・拡大を実現しよう。

さらに一〇四七名の仲間たちの解雇撤回に向けて全力で奮闘しなければなりません。この闘いの原点は言うまでもなく、政府・JRに国家的不当労働行為の首切りの責任をとらせるところです。動労総連合は、「4党合意」による国鉄労働運動つぶしの攻撃をはね返す闘いに先頭にたたなければなりません。重大な情勢のなかで執行委員長をひき受けることになりましたが、先人の闘いを引き継ぎ、労働者の権利と動労総連合の発展のために、その先頭にたつ決意です。



「4党合意」をふりかざした一〇四七名闘争解体攻撃を粉碎し、今こそ動労総連合の組織拡大を実現しよう。この時代に真正面から闘いを挑もう」と提起した。その後、議案の提起を受けて質疑や各地方からの報告が行われた。質疑では、春闘や秋期闘争でのストライキの報告、各地方でのJR総連解体・組織拡大に向けた取り組みの報告をはじめ、一〇四七名の解雇撤回闘争、シニア制度・検修業務の全面外注化粉砕に向けた闘い、ダイヤ改善反対闘争、運転保安確立に向けた取り組み、二〇〇一年春闘、反戦政治闘争の取り組みなど、二日間にわたり活発な意見が交わされ、21世紀の幕開けにふさわしい新たな運動方針と役員体制が満場一致で採択された。二〇〇一年度の執行体制では、

中野中央執行委員長と、総連合結成以来書記長努められた布施書記長が勇退され、君塚委員長・田中書記長を先頭とした新体制が選出された。

新世代の執行体制を確立

JR総連・革マルの醜い内部抗争・大崩壊が始まる状況のなかで、動労総連合も、いよいよ大きな飛躍のチャンスを迎えている。この十数年間、われわれが提起し実践しつづけてきた原則的闘いがいよいよ実を結ぶ情勢だ。今大会では、こうした情勢にふさわしい、新世代の執行体制が確立された。君塚委員長を先頭に、全組合員の力を結集して、動労千葉・動労総連合の本格的な発展をかちとろう。

【二〇〇一年度新役員体制】

中央執行委員長	君塚正治	50	千葉
副委員長	国分勝之	39	水戸
書記長	田中康宏	45	千葉
執行委員	和田山繁	50	高崎
	高野安雄	39	水戸
	小川正哉	43	西日本
	繁沢敬一	44	千葉
	川崎昌浩	42	千葉
会計監査	高石正博	54	千葉
	天田博	45	高崎
	外岡弘	39	水戸

大失業と戦争の時代に通用する新しい世代の動労千葉を創りあげよう！